安全教育の充実を目指して

～学校安全総合支援事業の取組から～

南九州市立頴娃中学校
教諭　鶴留　聡子

1　はじめに

本校は，平成31年４月に頴娃町内にあった３つの中学校が統合され，「自律・鍛錬・友愛」を校訓とする，新生頴娃中学校として開校した。現在，生徒数280人，特別支援学級２学級を含む11学級の学校である。

町内には６つの小学校があり，校区が広範囲に渡ることから，生徒の通学状況も徒歩通学生の他に，自転車通学生とスクールバス通学生に分かれている。本年度の通学比率は，徒歩通学生33.3%，自転車通学生15.9%，スクールバス通学生50.8%となっており，約半数の生徒が５台のバスで通学している。

2　学校安全総合支援事業の拠点校として

本校区は，山間部から海岸線まで広い通学区域がある。農業が盛んで農道が整備されているため，農道への一般車両の入り込みも増加している。そのため，子供も大人も交通安全に対する意識を高める必要があった。さらに，自動車等からの声掛け事案や不審者の出没事案等も発生しており，防犯を含む生活安全面の注意喚起も必要であった。

【安全啓発リーフレット】

そこで，令和２年度から２年間，交通安全及び防犯を含む生活安全の取組を推進する「学校安全総合支援事業」のモデル地域として，本校を拠点校に頴娃地区６小学校と共同で取組を展開することとなった。以下，これまでの本校の実践を具体的に述べることとする。

3　取組の実際

(1) 交通安全教室の実際

警察署や市役所と連携して，年度当初に交通安全教室を実施する。まず最初に，全校生徒を対象に，登校別のカテゴリーオリエンテーションを実施し，交通安全に対する啓発を行った。登校別のカテゴリーオリエンテーションでは，通学方法により，自転車通学生，徒歩通学生，スクールバス通学生に分け，担当の職員から，それぞれ通学に係る留意点を指導している。通学方法別に分かれて行うことで，通学方法の実態に合ったより具体的な指導ができる利点がある。オリエンテーション終了後は，「交通安全に関するＱ＆Ａ」をクイズ形式で行ったり，生徒に交通ルールに対する疑問点について警察署の方から専門的な話を伺う時間を設定したりしている。その後は，１年生は，自転車の乗り方教室を実施し，２・３年生は，「危険箇所マップ作り」を行っている。

【登校別オリエンテーション】

(2) 危険箇所マップの作成

数名によるグループを作り，通学路の中で気を付けなければならない箇所や，見通しの悪い箇所，不審者が出没しそうな人目につかない箇所等を地図上に表し，注意点を書き込むことで，より詳細なマップ作りができている。山間部から通学するスクールバス通学生については，バス停から自宅までの間で，不審者が出没しそうな場所を地図上に書き込ませている。完成したマップは各地区公民館で一定期間掲示してもらい，地域の方の交通安全運動啓発への資料として利用してもらっている。

【危険箇所マップ】

(3) 職員研修の取組

職員研修において，生徒が作成した危険箇所マップを基に，６小学校区へ分担して出かけ，実際に確認を行っている。その際，最初に地区公民館長に地域の交通状況や危険箇所,不審者等の状況について聞き取りを行い，その後，生徒が書き込んだ注意点と現場を比較し，確認を行っている。バス路線を含む通学路を確認することにより，通学状況に合わせた具体的な安全指導ができている。

【公民館長への聞き取り】

(4) ＰＴＡとの連携（自転車の安全点検）

ＰＴＡ生活指導部による自転車通学生の自転車点検を，各学期１回実施している。点検カードを基に，空気圧やブレーキの効き具合，サドルの高さ調節，タイヤの状況等を点検してもらい，不備があった箇所については，後日職員の点検により確認を行っている。

【ＰＴＡの自転車点検】

(5) 地域との連携（見守り活動の充実）

本事業を契機とし，子供の安全推進体制の充実を図るために,「子供見守りの日」と「ながら見守り活動」を各小学校区の共通実践事項として設定し，活動を継続している。

「ながら見守り活動」は，登下校中における「農作業中の声掛け」や「庭先からの声掛け」等，地域の方が生活の中で，無理のない範囲で取り組んでおり，生徒の安全登下校に寄与している。

【子供見守りの日の活動】

各校区で独自で行っていた取組を見直すよい機会となった。

(6) スクールバス生徒の安全意識を高める取組

（スクールバス乗車出発式・終了式）

新年度４月には，スクールバス通学生が乗車マナーを守り，１年間無事故で通学できるようスクールバス乗車出発式を行っている。

また，３年生が卒業する３月には，安全に送迎してくださったバス会社と運転手へのお礼の意味も込めて，スクールバス乗車終了式も実施している。

【スクールバス乗車終了式】

当日の運営は，各号車の責任者である３年生が担当し，感謝の言葉を綴った文集と花束を贈呈している。

４　成果と課題

(1) 成果

○　生徒の交通安全に対する意識の向上が図られ,自転車事故等がほとんど無くなった。

○　安全教育に対する教職員全体の意識の向上や職員研修の充実が見られた。また，自転車の安全点検日に参加する保護者も増え，活動が活発になってきた。

(2)　課題

○　校区が広いため，危険箇所等の点検については，これまで以上に保護者や地域との連携を密にし,情報収集を行う必要がある。

○　交通安全教育だけでなく，新たな危機事象に対する取組を意図的・計画的に行う必要がある。

５　終わりに

拠点校としての取組は，本校はもちろんのこと，校区全体で取り組んだことで，地域全体の交通安全に対する意識の高揚にもつなげることができた。今後も地域との連携を深め，拠点校としての役割を担っていきたい。